

市長指示

- 昨年6月に、2歳の女の子が亡くなるという大変痛ましい事案が発生してから、今月で9ヵ月が経過した。
- この間、市職員へのヒアリングなどを通じて、外部の専門家による検証が行われ、先日、その報告書の手交を受けた。
- 報告書では、すべての職場に関わる仕事の取組姿勢についても指摘されている。
- ひとつは関係する複数の部局が折り重なって仕事をする「協働の視点」が必要ということ。
- もうひとつは「支援を受ける方々の立場になって問題を理解する観点」が大切ということ。
- 札幌市では、これまでの10年余りに今回含め4度の検証報告がなされており、過去3回の報告書の中で指摘されたことが、また今回も繰り返されてしまっている。
- そして報告書の最後には、「札幌市は、これまでの死亡事例等から本気で学ぶつもりがあるのか。市民の困難を共感的に洞察し、協働の文化を持つ組織になる必要性を、本気で感じているのか。市政のあり方そのものが問われている。」との言葉が刻まれている。

- 私自身もちろんだが、庁内の全職員が、他人事ではなく自分事としてこの言葉を重く受け止めなければならない。
- そして、先に述べたような、「協働の視点」や「支援を受ける側の立場になって問題を理解する観点」をもっと意識し、職員一人一人が「自分に何ができるか」を常に考えながら、市全体で本気で取り組んでいかなければ、この問いに応えたことにはならない。
- 職員に対しては、私からそういったメッセージを速やかに発信していくつもりだが、同時に、求められているものが仕事の中に定着していくような仕組みも作っていかなければならない。
- 今回の報告書に書かれた問いかけにしっかりと応えていくために、この緊急対策本部については、今後、関係のある各部局を幅広く追加しながら恒常的な組織へと発展させ、私自身がトップとしてリーダーシップを取り、不退転の決意で取組を進めてまいりたいと考えている。
- 今回のような痛ましい事案が二度と起こることのないよう、全庁一丸となって、今後の対策にしっかり取り組んでいくよう指示する。
- 以上。